

### 第9章 4. 主権国家体制の形成

#### <中世のヨーロッパ>

- 現在のよう[1 **国家**]のまとまりは弱く、[2 **国境**]も存在しなかった。
- [3 **諸侯**]や[4 **騎士**]といった封建領主が事実上の独立国ともいえる[5 **荘園**]を支配
- 西ヨーロッパ社会をまとめる存在は[6 **ローマ教会**]を中心とした教会と[7 **皇帝**]

伝統的な国際秩序の解体→[8 **教会**]や[9 **皇帝**]の権威喪失



16～17世紀 [10 **主権国家**]体制の成立

主権国家体制…明確な[11 **国境**]で囲まれた領土をもち[12 **君主(国王)**]が国を代表するといった独立した主権を持つ国々が、互いに[13 **対等**]な外交関係をつくる国際秩序。[14 **近代国家**]の原型となる

#### a. イタリア戦争と主権国家体制

①1494年～16世紀半ば [15 **イタリア**]戦争発生

…イタリアの覇権をめぐり[16 **フランス**]と、[17 **神聖ローマ皇帝**]・[18 **スペイン**]の間で戦う  
→以後、[19 **フランス**]王家と[20 **ハプスブルク**]家の対立が18世紀半ばまで続く

ヨーロッパ諸国同士が領土獲得や宗教政策をめぐり対立→戦争と妥協という緊張の高まり

②戦争の長期化・大規模化([21 **軍事**]革命)

→大量の[22 **兵員**]や膨大な[23 **軍事**]費が必要に

③[24 **徴税**]機構を中心に行政組織の整備→25 **国内の一元的支配**をすすめる

([26 **主権国家**]体制の成立)

(1)[27 **諸侯などの領主**]から権限を奪い、国内の統一が進行

→14～15世紀[28 **百年**]戦争、15世紀後半[29 **ばら**]戦争など

(2)君主の命令を全国に伝達・実行→[30 **官僚制**]の整備

(3)他の国家・国内の反対派と争う→[31 **常備軍**]の形成(←これまで領主が軍事力を担う)

④絶対王政の成立…16世紀～18世紀

絶対王政…旧来の[32 **封建**]領主の権力の衰えと並行して、国王らが[33 **中央集権**]的な国家体制を用いて、国民にたいして司法、行政、軍事などあらゆる面で絶対的な権力を行使した政治体制。しかし[34 **身分**]制度など封建制の基礎となる制度は維持され、[35 **領主**]である貴族や[36 **聖職者**]は中間団体を形成し、王の直接支配を妨げた。このため王は商人や金融業者などの[37 **ブルジョワジー**]の地位を上昇させ、協力を得てこれに対抗した。

#### b. スペインの全盛期

①1516[38 **ハプスブルク**]家の[39 **カルロス1**]世即位  
(1519～神聖ローマ皇帝[40 **カール5世**]と同一人物)

ア) 41 **伝統的なキリスト教世界の統一**をめざす



他の諸勢力=[42 **勢力均衡**]の考えにたち協力してこれに対抗  
フランソワ1世(仏)とヘンリ8世(英)の協力

イ) 1496～1559[43 **イタリア**]戦争…フランス([44 **ヴァロワ**]朝の[45 **フランソワ1**]世)やイタリア諸都市などとたたかう  
→1559[46 **カトールカンブレジ**]で妥協成立

ウ)カトリック勢力の中心として[47 **ルター**]派などとシムマルカルデン戦争を戦う。→1555[48 **アウグスブルクの和議**]で妥協成立

エ)[49 **オスマン**]帝国(イスラム教国 スレイマン1世)による[50 **ウィーン包囲**]をしのぐ(1529)

オ) 1555 アウグスブルクの和議→1556 引退 1559 カトールカンブレジ和約

→オーストリア王(皇帝)を弟フェルナンド1世に、スペイン王を子[51 **フェリペ二世**]に相続させ引退

⑥[52 **フェリペ二世**]世即位(オーストリアはフェルナンド1世即位) 英王メアリ1世の夫

ア)[53 **プレヴェザ**]海戦でトルコを破る(1571)、[54 **ポルトガル**]併合(1580)

→「[ **太陽の沈まない帝国** ]」を実現する

イ)反宗教改革の中心=カトリック強制→[55 **オランダ**]の独立運動発生(1568～)

ウ)イギリス王の王位継承をめぐり[56 **エリザベス1世**]と対立

→[57 **無敵**]艦隊を派遣するが敗北(1588)

しだいに衰退にむかう 背景:富を戦争や宮廷生活に浪費、国内産業の育成を怠る。

1479年成立した[58 **スペイン**]王国は1492年のコロンブスの航海以来[59 **アメリカ**]大陸に進出、発展の基礎をつくった。16世紀には[60 **神聖ローマ**]皇帝の家柄である[61 **ハプスブルク**]家がスペイン王を兼ね、ヨーロッパでもっとも有力な一族となった。16世紀前半の王[62 **カルロス一世**]は神聖ローマ皇帝カール5世と同一人物である。しかしかれがヨーロッパ全体の覇権を握ろうとしたため、[63 **フランス**]は[64 **ルター**]派キリスト教徒やイスラム教徒である[65 **オスマン帝国**]と結んで、この動きを阻止した。

この国の全盛期は16世紀後半の[66 **フェリペ二世**]のときである。1571年にはオスマン帝国を[67 **プレヴェザ**]海戦で破り地中海を制し、1580年[68 **ポルトガル**]を併合、「太陽の沈まない帝国」を樹立した。しかし反宗教改革の動きの中で[69 **カトリック**]信仰を強制したため、新教徒の多い[70 **オランダ**]で独立戦争が発生、[71 **イギリス**]のエリザベス1世と対立、1588年[72 **無敵艦隊**]を派遣し屈伏させようとしたが敗北し、しだいに衰えていった。

